



表紙挨拶

診療部長 中村 憲一

40号

発行/小林市立病院
地域医療連携室



～西諸医療をささえて、20数年、心に思うこと～
台風19号による、川の氾濫・濁流にのみこまれた人や、土砂崩れで埋もれた人のニュースを見、自然の驚異をつくづく感じています。台風一過の晴天のもと運動会をする人々のはつらつさは、生命の大切さ、ありがたさを思います。これまで、西諸の救急患者、重症者を受け入れ、診断評価し知識をふりしぼり、最大限の治療をすすめ、この地域のなかで完結できるようにと寝る間も惜しんで、努めてきました。

更に内科疾患（心臓障害、呼吸器障害、神経障害）の重症者も受け入れ、評価し治療してきました。あるケースで、超高齢の母が1人で障害と疾病のある息子を看病できずに、施設に入れなければ、面倒をみることができないということがありました。また両下肢障害で、仕事ができなくなった人のケースでは、家族の経済的負担がかなり大きくなったにもかかわらず、社会がサポートできない等、いろいろ複雑な事情もありました。これらは、高齢者が多く、働き手が少なく、働く場所も少ない西諸特有の地域性からきていると思われます。地域医療のなかで、医師という戦士は、日々戦い、疲労が極限に達しています。しかし、医師の数が満たされていない西諸地域のなかで、1人の医師のもてる力を精一杯発揮し、西諸の人たちの命をつないでいこうと、努力邁進しております。

献血の季節となり、針の痛さを感じつつ、命の大切さ、命をつなぐことを覚悟する次第です。整形外科医として20数年、診療に携わるなかで、最も多い疾患は腰痛でした。超高齢化社会において、腰痛、下肢の疼痛・しびれは年々増加しています。純粋に腰椎病変（腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎体骨折）からの症状もありますが、腰椎疾患を合併しない腰痛殿部痛症例が多々あります。それは、梨状筋症候群、仙腸関節障害、殿皮神経障害などです。症状の部位を把握し、適切な診断のもと、ブロック療法や運動療法、薬物療法で、多くは症状を軽快させることが可能です。

病院の理念

安心、安全で信頼される病院を目指します

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



小児科外来

平成31年4月1日から小林市立病院 小児科に着任した中田雅之と申します。私は、小児科医となってから18年目となります。その間に、数年ほどフィラデルフィア小児病院（アメリカ）とトロント小児病院（カナダ）で小児循環器と小児集中治療について勉強させていただきました。日本を含めて3カ国の医療をみてきましたが、それぞれの国（日本も含めて）で良いところがあり、多くの違いを感じております。また、日本国内においても、都心と地方の医療事情が異なることも感じております。このような経験を通して、一番大切にしたいと思うようになったことは、患者さんに安全な医療を提供することです。小林市立病院に着任後、半年が経過しました。その間に、小児科外来診療に加え、安全にお産を提供するための緊急帝王切開対応（当院の全医師、助産師、看護師の方々の協力の下）、新生児入院対応（産婦人科医師、助産師、看護師の方々の協力の下）をさせていただくようになりました。また、他院での分娩後に母親が当院へ転院した場合の赤ちゃんの対応もさせていただいております。さらに、宮崎大学小児科医師の方々の協力の下、専門的医療についても対応させていただいております。現在は常勤小児科医一人のため皆さまのニーズにこたえられる十分な体制にはいたっておりません。その中で私達ができること、そして患者さんに安全な安心できる医療を提供できるようにひとつずつ成長し努力していきたいと思えます。（システムの構築に時間がかかるとは思いますが）新生児、小児医療の安全と充実に向けて、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

ここからは、私個人の紹介になります。私は、学生時代に宮崎によく旅行に来ておりました。当時は高速道路が整備されておらず、時間をかけて延岡から鹿児島まで下道で行き、フェリーで種子島に渡ったことを懐かしく思っております。宮崎の気候と人柄のよさに惹かれて、いつか、この地で生活したいと考えておりました。都心での生活をしている中で、宮崎で子育てしたいと考えて家族で移住してきました。1歳になる息子は小林市での生活が楽しいようで、毎朝4時に起床し朝食後に散歩にいきます。息子と散歩していると、道行く人たちが笑顔でやさしく声をかけてくださることも多々あり、通っている保育園の保育士の方や保育園の子どもたちと時間を過ごすようになり更に息子も幸せそうです。小林に来て本当に良かったと感じております。

小児科医長
中田 雅之



第34回 症例検討会を行いました



病棟看護師
松永 真佳



★ 脊髄損傷患者における一般病棟での看護
～回復過程・患者との関わりを振り返って～



臨床工学技士
村田 淳一



★ 非接触型ICカードによる透析条件の自動化入力の検討



泌尿器科医長
森 勝久

★ 当科における免疫チェックポイント阻害剤の使用経験

紹介患者さんの予約受付について



平成26年4月から紹介患者さんの**事前予約**が必要となりました。
 紹介元医療機関様は、当院ホームページより予約申込書に必要事項を記載していただき、
 FAXにてご予約をお願いしております。
 ※患者さんからの診察予約はお受けできません。**かかりつけ医の先生**にご相談ください。
 ※予約変更は13:00からお受けしております。



食と栄養のたより



臨床栄養室

新しい年を迎えるこの時季は、みなさん一年が終わることに安堵し、新しい年の健康を願うことと思います。長寿国といわれる日本人の平均寿命は、男性81.25歳女性87.32歳で世界の中でも上位となっています。厚生労働省は、日本人の長寿を支える「健康な食事」について次のように示しています。

日本の伝統的な食事には、長い年月をかけて人々の智慧によってはぐくまれてきた食文化の良さがあります。「健康な食事」の実現のためには、こうした日本の食文化の良さを引き継ぐとともに、健康や栄養バランス、おいしさや楽しみをともなっていることが大切です。

このイラストは、**主食・主菜・副菜を組み合わせた食事**の推奨のためのシンボルマークです。

黄色が「主食」、赤色が「主菜」、緑色が

「副菜」を表現しています。皆様の食事づくりや食べる場面で役立つよう作られました。



日本の伝統「年越しそば」「おせち料理」は、まさに長寿を願う伝統料理と言えます。

現代の私たちの食事は、このような日本特有の伝統が薄れつつありますが、長く受け継ぎたいものです。当院では、入院中の患者様に行事食の提供を行っています。

〈大晦日〉年越しそば (左) 〈正月〉 天ぷら (中央) と刺身 (右)



「長寿」のための食生活 ～食生活指針の一部より～

1. 食事を楽しみましょう (毎日の食事で、健康寿命をのばしましょう)
2. 1日の食事のリズムから、健やかな生活リズムを
3. 適度な運動とバランスのよい食事で適正体重の維持を
(高齢者の低栄養に気をつけましょう)
4. 主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを
5. ごはんなどの穀物をしっかりと
6. 野菜・果物、牛乳・乳製品、豆類、魚なども組み合わせる
7. 食塩は控えめに、脂肪は質と量を考える (動物性と植物性の脂肪バランスが大切)



手術室・中央材料室



手術室・中央材料室を紹介します。

当院では、長年休診となっていた産婦人科が平成29年5月から再開し、平成31年1月から分娩が再開しました。手術室においては消化器外科・腫瘍外科、整形外科、泌尿器科に加え、産婦人科の手術が行われています。ここ数年の手術件数は、年間500件程度で推移しており、今年も同様の傾向です。高齢化社会が進む中、当院の手術患者の平均年齢も少しずつ上昇しており、10年前と比較すると約4歳上昇しています。しかし、産婦人科の手術が再開したことで、手術患者全体の平均年齢は下降傾向です。産婦人科の帝王切開術については緊急を要する場合も多く、器材の準備をはじめ、手術手順や役割確認など日頃からの備えが必要です。また、病棟・手術室を中心に超緊急の帝王切開術を想定したシミュレーションを複数回実施しており、今後も継続して取り組む予定です。患者さんの安全を第一に考え、手術室、病棟、外来など部署間や多職種での連携とチーム医療に取り組む必要があります。そのためにもコミュニケーションを大切にし、顔の見える関係づくりが重要と考えています。



手術室
看護師長 米丸 博子



手術室Newface紹介

病棟から異動となり、初めての手術室勤務でとても緊張していますが、先輩方から指導をもらい知識、経験を身につけて早く一人前のOPE室看護師になりたいと思っています。よろしくお願いします。

田中 佑樹



趣味：バレーボール

小林市の印象：いなかでゆったりしたところ

ひとこと：宮崎大学医学部附属病院救急科に所属して2年目となりました。週1回、救急外来で診療させて頂いております。

少しでも小林の力になれるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。



いずもと
伊豆元

しんたろう
心太郎

医師

今回のお花

小林華道連盟より
毎週すばらしいお花をいただいております。



地連スタッフのひとこと

社会福祉士 時任 由紀奈

すっかり冬らしくなり、手袋やニット帽等の防寒服が欠かせなくなりました。みなさんはどんな防寒対策を行っているのでしょうか。私の最近の好きなことは、各地域や場所でマルシェが盛んに開催されていて、そこに行き、掘り出し物を見つけたり、美味しい食べ物を食べたりすることです。みなさんも気になるマルシェがあれば行ってみてください。あと1ヶ月で今年も終わりますが、みなさん、体調に気を付けてお過ごしください。

